

平成29年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (2月20日実施)	総合評価(3月23日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程・学習指導	<p>・自立と社会参加を目指し、児童・生徒の実態を的確に把握し、入院中の学習保障をすると共に、柔軟かつ多様な充実した教育活動を実践する。</p> <p>・ICT機器等の有効活用による環境整備を推進し、多様な授業の実践・研究を推進する。</p>	<p>①ICT機器等の有効活用による環境整備をさらに推進し、多様な授業実践の試行を進める。</p> <p>②全ての教員がICT機器等を活用し、多様な授業及びつながる授業を実践し、間接体験・疑似体験等を取り入れた指導方法を工夫する。</p>	<p>①文科省「入院児童生徒等への教育保障体制整備事業」により導入した、ICT機器等およびシステムを活用し、教室、病棟、ベッドサイドや児童・生徒の自宅等をつなぐことによる児童・生徒の多様な学びの場を提供する。</p> <p>②全ての教員がICT機器等を活用したつながる授業を実施する。また、事例を積み上げ、教育内容の充実と学習保障を図り、児童・生徒の復学支援体制の充実につなげる。</p>	<p>①児童・生徒への多様な教育実践ができたか。</p> <p>②全ての教員がICT機器を利活用し、つながる授業を実践したか。児童・生徒の復学支援体制の充実につなげる事ができたか。</p>	<p>①達成した 教室では授業で毎時間 ICT 機器を活用したり、病棟では活動の様子をビデオに撮り、間接的に教室等の授業に参加したりすることで、授業内容、教示方法の幅が広がった。重度化に対応した授業の作り方を研究し、児童・生徒にどのような ICT 機器の活用が可能かを検討・実践することができた。</p> <p>②概ね達成した 年間を通して ICT 機器等を活用し、つながる授業実践を中心に積極的に行った。全職員対象に ICT 機器関連実態調査を9月、2月に実施し、web 会議システム接続方法の理解は48%から 59%、web 会議システムを利用した授業実践は 37%から 52%に上昇した。</p> <p>また、校内研究や学部内研修会では、新たな実践例や可能性を探り、成果や課題を共有した。一時外泊中の児童自宅とつながる授業など、復学に向けた支援体制の拡充が図れた。転入相談において必要と判断した児童・生徒および保護者に対して、画像や動画を見せながら説明したことで、安心につながる相談を行うことができた。</p>	<p>①日々の実践を積み重ねることにより、授業力を高めることができた。今後も ICT を活用した実践を積み上げ、より日常的に活用することで、効果的な学習を展開していく。更に、児童の間接体験・疑似体験を通じた学習展開を試行していく。芹が谷学級との連携では機器、通信等の不具合があり、大画面のモニターが使用できなかった。事前の動作確認、環境設定を更に丁寧に確認していく。機材を準備する教員の負担が大きい。</p> <p>②ICT 機器活用状況は向上しているが全員が実践するには至っていない。校内研究と連動した実践により各学部の実態や、研究段階に即した取組が行われたことは評価できるので、次年度も継続していきたい。復学支援体制は、他市町との連携構築が課題である。ニーズに応じた復学支援に積極的に取り組んでいく。</p>	<p>[学校評議員] ①修学旅行や行事等と病室をつなぐ取組も行われ、ICT を活用した間接体験、疑似体験による主体的な教育が行われている。</p> <p>②昨年度は機器の利用という課題で終わっていたが、今年度は活用が図られ、こども達にも合った有効的な活用の工夫をして、試行しながら取り組んでいることがわかる。</p> <p>[アンケート]授業の工夫が出来ているか 保護者：思う 99% 病院関係者：思う 75%、 (判断できない：23%)</p> <p>[アンケート] ICT 機器を活用できたか 教員：できた 87%</p>	<p>①成果：文科省事業展開の2年目で、機器の整備が進み、ICT 機器等を活用した多様な授業の実践が行われた。 課題：つながる環境の技術的課題(音声・映像通信の不安定等)については引き続き改善を図る必要がある。</p> <p>②成果：多くの教員がICT 機器を利活用し、つながる授業を実践した。一時外泊中の児童自宅と教室をつなぐ事例や、入院高校生に対する学習支援等、復学・卒後支援体制やセンター的機能の一環としての事例もいくつか試行された。 課題：全ての教員が実践するには至っておらず、ボトムアップの方策が必要である。</p>	<p>①事業3年目は総括的に研究成果を取りまとめ、他校や他県でも実施可能な事例として発信できるよう技術的側面の課題と改善、成果の検討を積み重ねていく。</p> <p>②全ての教員がICT 機器を利活用し、つながる授業を実践できるよう、サポート体制を一層充実させる。また復学支援体制の充実に向けて、他市町との連携を具体化させる。卒後支援、高校生支援についても事例を重ねる。</p>
2 児童・生徒指導・支援	<p>・児童・生徒一人ひとりの個性や医療状況を尊重し、ニーズに応じた支援・指導を組織的に行う。</p>	<p>①組織的に支援・指導し、情報を共有するとともに、病院や他の特別支援学校等外部機関と連携するシステムを確立する。</p> <p>②教育相談報告様式や相談体制を整理・改善・活用する。</p>	<p>①個別教育計画の様式見直しも含め、活用しやすい支援ツールの改善を進める。指導検討会、こころカンファレンス、肢体・重心連絡会等で情報を交換し指導方法・指導内容を確認する組織的なシステムを作る。</p> <p>②教育相談報告様式や相談実践体制の見直し改善を進め、本校の実情に適した組織としての相談体制の構築を進める。</p>	<p>①支援ツールが改善したか。連携システムを確立したか。</p> <p>②報告様式を改善し組織的な相談体制を構築して、課題解決につながった実践事例が増えたか。</p>	<p>①定期的なカンファレンスについて、医療関係者と学校との情報共有が、より効果的になるよう進め方や展開を工夫していく。いじめの防止について、次年度の方針に沿い、聞き取りや指導を引き続き行う。</p> <p>ベッドサイド授業の入り方を整理し、施設とも連携をとることで、安全に配慮した指導が行える基準を作ることができた。さらに健康や安全に配慮した指導をおこなうための連携を強化する必要がある。</p> <p>②個別の課題の部屋での学習や芹が谷学級の指導では、担任、担当、教育相談 Co、学部長等で情報を共有し指導に当たれたが、多くの教員が係わることで、指導方法、内容の根拠や継続性や、積み重ねについて更に共通理解を深める必要がある。指導体制や手続きに関しては、分かりやすい図示や視覚的な資料の工夫を更にしていく。</p>	<p>[学校評議員] ①こどもの病状、状態に合わせて様々な教育計画を立ててかかわることが理解できる。計画を具体化し実践することで成果を上げている。</p> <p>②教育相談の統計もしっかりまとめられており、内外でTEL、メール、PHS等活用しながら課題解決に向け、丁寧な相談体制を組んでいる。</p> <p>[アンケート]医療との連携が取れているか 保護者：思う 98% 医療関係者：思う 61% 教員：思う 100%</p>	<p>①成果：医療関係者との話し合いや連携を重ね、感染症防止対策、医ケア対応、登下校時の体制確認、授業見学のシステム化等で具体的な改善が図られた。 課題：医療関係者アンケート「学校と医療が連携して取り組んでいるか」との設問で「少し課題がある・課題がある」が 37%にのぼり、連携に関しての不足さも指摘される。</p> <p>②成果：教育相談担当がなされ、転出入に係る本人・保護者の不安を軽減している。 課題：支援シート、個別の教育計画が形骸化しないよう、改善を図る必要がある。</p>	<p>①病院内に併設された病弱特別支援学校として、医療関係者との連携を組織的に一層推進し、情報の共有化、役割分担の明確化、ルールやマニュアル化の整備を進める。</p> <p>②組織としての相談体制整備を一層推進し、児童・生徒および保護者の不安を低減し、スムーズな転出入・移行支援を行う。支援シート、個別の教育計画の記載事項について見直しを図る。</p>	
3 進路	<p>・一人ひとりの将来の生活の充実を目指す</p>	<p>①児童・生徒の将来の生活を見据え、学校教育</p>	<p>①学校教育全体を通じたキャリア教育</p>	<p>①キャリア教育の推進事例</p>	<p>①達成した アサーショントレーニングや、エニアグラムを活用した授業を取り入れ、自己理解、他者理解を深めさせ</p>	<p>①今後は重複障害を持つ児童・生徒に対してのキャリア教育の観点を持った指導方略の研修を行い、更に効果的な</p>	<p>[学校評議員] ①普段やっていることが将来仕事につながる</p>	<p>①成果：道徳、総合的な学習の時間及び各教科等で自己理解、他者</p>	<p>①キャリア教育に関する研修の機会を設け、キャリア</p>

視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (2月20日実施)	総合評価(3月23日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
指導・支援	し、医療状況や復学時期への見通しに応じた進路指導・復学支援等を行う。	全体でキャリア教育の充実を推進する。 ②復学支援・進路指導を組織的に行うとともに、復学後や卒後の支援を継続的に実践する。	育の推進を積極的に行い、実践事例を積み上げる。 ②復学支援が必要なケースに応じて実効的な支援を行う。進路指導では、志望校、教育委員会等と連携し、移行支援を確実に進める。ICT機器等を活用して復学後や卒後の支援を継続的に行う。	が増えたか。 ②関係者と連携を図り、復学支援・進路指導を組織的に行ったか。ICT機器等を活用した復学後や卒後の支援を行ったか。	るとともに、いじめ防止にもつなげた。各教科では自己に係わる将来像等を見据えた授業作りをした。外部講師による職業講話等を通して自分のキャリアを考える機会を作った。 ②概ね達成した 教育相談担当の復学に向けた支援が効果的に機能し、本人や保護者の不安を軽減することができた。実態把握やいじめにつながりかねない部分等も想定し、前籍校及び関係機関との連携を図りながら支援を進めることができた。進路指導ではキャリア教育の視点を重点に置き、生徒・保護者が安心して移行できるよう支援を行った。必要に応じて相談時に ICT 機器等の活用ができた。	実践につなげていく。引き続き、インクルーシブ教育に基づく授業を行う中でキャリア教育を進め、自己理解、他者理解を深めさせていき、いじめ防止にもつなげていく。 ②引き続き、チームとして取り組み、環境を含めた状況や条件等を正確につかみ、適切な移行支援を行っていく必要がある。各学部の教育相談担当と進路指導担当による支援をさらに充実させ、組織力をアップさせていく。病弱教育における ICT 機器等を活用した復学後や卒後の支援のための実践事例を増やしていく。	を生徒が実感できる教育を行っている。生徒が将来の目標について発信できる事例は本当に生徒のことを考えた素晴らしい取組である。 ②転出入について丁寧に、事務手続きだけでなく、本人・保護者の不安にもしっかり向き合っている。 [アンケート]安心して復学できる取組がされたか 保護者：思う99% 医療関係者：思う71% 教員：思う89%	理解に係る指導が行われ、いじめ防止に関する指導とともに自分の将来を思い描く取組が積み重ねられた。 課題：いじめにつながる事案に関しては実態把握と速やかな対応を常に心がけていく必要がある。 ②成果：関係者と連携を図り、復学支援・進路指導を組織的に行うことができた。 課題：ICT 機器等の活用事例を積み重ねる。	教育の視点から教育課程や授業実践を再検討する。特に自己肯定感や他者理解を大切にしたい指導を重ね、いじめ防止に資する。 ②必要に応じ関係機関との連携を推進して、ICT 機器等を活用した復学後や卒後の支援を積み重ねる。
4 地域等との協働	・地域の小中学校へのコンサルテーションを実施し、さらに地域の特別支援学校へ支援をつなぐ。 ・病弱教育に関する理解や啓発を進めるため、地域の小中学校や特別支援学校へ発信する。	①相談内容に対する組織的な対応の基本的な流れと体制をより機動的に改善・構築し、インクルーシブ教育の推進を図る。 ②地域の小中学校や特別支援学校等と連携した教育活動を推進する。	①地域の小中学校へのコンサルテーションを組織的に実践する仕組みを確立する。「交流及び共同学習」等を通し、病弱教育としてのインクルーシブ教育を推進する。 ②「南の風」やホームページの内容を充実させ、それらを活用する。 ③地域の小中学校や特別支援学校等と連携した教育活動への出前授業等を実践する。	①組織的な対応の体制、システムを構築し実践したか。病弱教育としての「交流及び共同学習」等が実現したか。 ②内容の刷新ができたか。 ③連携した実践ができたか。	①概ね達成した 復学に向けた試験登校を実施し、地域の学校での授業参加を段階的に進めた。復学支援会議では本校での取組や、前籍校等に戻ったときの配慮事項等を伝えるために、必要に応じて担任、教育相談 Co、学部長等のメンバー、関係機関が参加し、情報共有した。 ②達成した 「南の風」とホームページに病弱虚弱教育に関する授業の紹介や研究・研修の内容を掲載することができた。ホームページの全面的刷新を図ることができた。 ③達成した 公開講座を実施し、病弱教育についての理解を深める機会を広く提供することができた。ICT 活用授業実践を県・市や全国に発信した。地方からの視察も多くあった。校内研究の成果を「研究のまとめ」として作成し、本校の実践を他校へと発信することができた。	①転学相談時には保護者に地元校との情報交換の許可を確認し、必要に応じて積極的にを行う。特別支援教育を必要とする児童・生徒に向けた教材や教具、及びキャリア教育の観点にもとづく目標の設定など、研修の機会を設けていく。 ②ホームページは随時更新し、常に最新の情報を発信していく。 ③県立、市立特別支援学校、市町村の小中学校の教職員の参加もあり、病弱教育についての理解を深める機会を提供できた。研修のねらいは本校の職員も含め、達成できたといえる。次年度の公開講座のテーマについては、病弱教育に関わる教職員が必要なものを検討していき、外部参加者の増加も図りたい。情報発信の仕方も検討する。	[学校評議員] ①教育相談の成果が見られる。病弱教育について地域との情報共有を進めている。教育、実践の発信もこれから期待したい。 ②「南の風」やホームページ等、年々充実してきている。 [アンケート]学習状況を伝える工夫がされたか 保護者：思う100% 教員：思う98%	①成果：相談内容に対する組織的な対応の基本的な流れと体制を改善することができた。 課題：地域の小中学校へのコンサルテーションを組織的に実践するシステムを構築する。 ②成果：ホームページが刷新された。 課題：発信内容と方法を充実させる。 ③成果：公開講座や学習発表展等を通じ病弱虚弱教育の理解・啓発が図られた。 課題：発信方法を改善し外部参加者の増加を図る必要がある。	①復学支援体制の充実を図るため、地域の小中学校との連携を図り、病弱教育に係る地域の教育力の底上げに寄与できるよう組織的に支援する。 ②HPについては、常に更新を行い、研究成果を含め最新の情報を発信する。 ③地域の小中学校や特別支援学校等と連携した教育活動への出前授業等を試行する。
5 学校管理・学校運営	・教職員の人格的資質、専門性の向上を図る。 ・限られた利用可能施設や、制約が多い環境の整備と最大限の活用を図る。 ・事故、不祥事を防止を徹底する。	①ICT 機器等を全ての教職員が活用できるよう研修やサポートのシステムを構築する。 ②各種マニュアルの確認や改訂、内容の周知徹底を進める。 ③物品の適正な管理・利用体制を構築し運用を徹底させ、組織的な保守点検を行い、事故・不祥事を防止する。	①管理運営グループを中心に学部部門を越えたサポートシステムの構築を提案し実践・検証していく。 ②マニュアルの解説や質問等に対する説明を丁寧にしながら徹底させ、活用度や改善点を確認する。 ③物品管理状況を再確認する。組織的な管理・利用体制を構築し、実働させる。	①システムが構築され、職員をサポートしたか。 ②全ての職員がマニュアルを活用したか。 ③物品等を適正に管理・活用し、事故、不祥事を防止したか。	①達成した 分掌の研修の活用や自主的な研修を積極的に行い、助け合いながら授業に取り入れていくことで、日常的に活用するようになってきた。校内研究や学部内研修会では、新たな実践例や可能性を探り、成果や課題を共有した。機器の扱いに慣れていない教員を対象としたミニ研修を設定し、実施した。 ②概ね達成した 防災マニュアルの職員避難体制を見直し、防災マニュアルに反映した。私費会計書類の書式の見直しに着手した。 ③達成した キャビネットや、貸し出し予定調整表、院内 LAN 用スレート PC 管理簿等により定期的な保守点検を実施し適正な管理・運用ができた。	①事故防止会議、学部部門でweb会議システムを含む情報関係研修会を実施したが、日程調整の関係で不十分な部分もあった。全ての教員が ICT 機器等を利活用し、つなぐ授業を実践するという学校目標の達成に向けて、教員の技術的レベルに応じた研修の機会を設ける必要がある。 ②私費会計マニュアルについては引き続き改善を図っていく。他のマニュアルについても改善するべき余地はまだある。特に公文書などの作成については、フォーマットを整備することで、働き方改革につながると考えられる。 ③管理物品の増加に伴い、物品管理状況を定期的に確認し、組織的なチェック体制を整備する必要がある。	[学校評議員] ①ICT の環境整備に力を入れており、成果を出している。教員へのサポート体制を大切にしているが研修については次年度の取組を期待したい。 ②適切に業務を進めるためにマニュアル活用によりしっかり取り組んでいる ③院内LAN用PC管理など保守点検もしっかりやっている。 [アンケート]事故防止不祥事ゼロを推進したか 教員：思う100%	①成果：ミニ研修等サポートシステムの改善が図られた。 課題：レベルに応じた研修の必要がある。 ②成果：各種マニュアルの確認や改訂、内容の周知が進められた。 課題：私費会計マニュアルについては引き続き改善を図っていく。 ③成果：物品等を適正に管理・活用し、事故不祥事を防止した。 課題：チェック機能が形骸化しないように注意喚起をする。	①教員のレベルに対応したステップアップ研修を開催し、サポート体制を充実させる。 ②私費会計マニュアルをはじめ、各種マニュアルの見直し、改訂を進め、誰もが引き継げるシステムを整える。 ③物品管理、個人情報管理を徹底し、事故不祥事ゼロを引き続き達成する。